

就職直前に障害福祉サービスを利用することになったケース

圏域 安房 センター名 中里

氏名	A・O	居住形態	家族同居	GH	单身	その他
手帳種別及び等級	療育手帳 B-1	年齢	21歳	性別	女	
成育歴および現在の生活状況	<p>両親共働き家庭にて生まれ育つ。3つ子で生まれ、A・Oは超未熟児であった。選択制緘黙症で周囲とのコミュニケーションがほとんど取れない。高校は特別支援学校へ入学し（職業コース）、3年時の前期・後期実習は障害者雇用枠で就職予定先であるC社（製造業）で実施した。前期の実習が終わった段階で、後期も同様の実習を行い就労に向けて進めるということで、後期にナカポツセンターも実習の様子を確認し、A・Oとの関係構築を始める。後期の実習が終わり雇用に向けて話を進める段階で、急遽福祉事業所での訓練を踏まえた上で就労をお願いしたいと話があり、障害福祉サービスを受けてから6月1日採用という流れになる。卒業前の移行支援会議ではナカポツセンター登録の手続きを行う。</p>					
就業前の訓練事業所	B事業所	サービスの種類	自立訓練事業	期間	2か月	
就職先	C社		入社日	H30.6.1		
業務内容	事務補助					
就業先企業情報	<p>業種：製造業 障害者雇用歴について、人事課の積極的な取り組みもあって現在は雇用率を達成している。学卒や中途採用での就職者はそれまでもいたが、法定雇用率の上昇に伴って雇用率未達成の時期もあり、ナカポツセンターやハローワークとも連携を取りながら雇用率達成に向けて長く取り組んできた。今は人事課だけでなく、雇用されている現場の方とのやり取りも増え、雇用相談から定着支援まで幅広く企業との連携が継続されている。障害者雇用はC社内にて幅広い現場でされているほか、事務や補助業務を集約した専属部署も設置されており、ナカポツセンター開所以来支援を続けている。</p>					
就業前の課題	緘黙症の為に、コミュニケーション能力が低く、自身からの発信力が非常に弱かった。					
就労定着支援個別支援計画	-					

<p>課題解消に向けた支援体制</p>	
<p>障害者就業・生活支援センターと就労定着支援事業所間の連携経過</p>	<p>就労面の支援は主に就労定着支援事業所が行い、定期的な面談や定着支援に入る。ナカポツセンターも企業支援という形で支援に入るほか、A・Oが所属する部署の他登録者への支援や企業支援を行う為に定期的な職場訪問は行っている。その都度、就労定着支援事業所とのやり取りは密に行われている。生活面の支援はナカポツセンターが中心となって行っていたことがあり、障害年金受給前に母より申請方法や書類の内容依頼などの相談から支援に入った。</p>
<p>具体的支援経過</p>	<p>H 29.11 後期の実習同行を行い、関係性の構築を始める。</p> <p>H 30. 2 移行支援会議を行い、ナカポツセンター登録の手続きを行う。</p> <p>H 30. 4 福祉サービスを開始する、ナカポツセンターの関わりは特に無し。</p> <p>H 30.6 C社に入社。ナカポツセンターは他登録者への定着支援で企業訪問する為、その際にA・Oの様子確認を行う。</p> <p>H 30.10 他登録者への支援訪問した際にナカポツセンターもA・Oの様子確認を行う。この日の支援としては、部署内研修を行うということで、研修のアドバイザーとして同席し、A・Oの様子も併せて確認する。</p> <p>H 31.2 他登録者への定着支援訪問した際にナカポツセンターもA・Oの様子確認を行う。</p> <p>R 1.6 他登録者への定着支援訪問した際にナカポツセンターもA・Oの様子確認を行う。</p> <p>R 1.8 母より、障害年金受給についての相談がある。無料の社労士相談会があることを伝え、日程の確認と申し込み手続きについて支援を行う。</p>

具体的支援経過	R 1.9	他登録者（支援学校時の同級生で親同士も仲の良い方）も無料相談会に申し込みをし同行する事となり、相談にも同席をする。
	R 2.1	他登録者への定着支援で訪問した際にナカポツセンターもA・Oの様子確認を行う。
	R 2.5	他登録者への定着支援で訪問した際にナカポツセンターもA・Oの様子確認を行う。尚、業務視察はコロナ過であり、感染防止の為訪問出来ず、部署担当者からの聴き取りのみ行う。
現在の状況及び支援効果	安定した就労が出来ており、また障害者年金受給も出来ることとなり、落ち着いた生活が維持されている。また年金受給時に行った支援は、他の同級生や下級生への保護者へも話が拡がり、在学中から年金に関する説明会など開かれることにも繋がった。定着支援事業所の定期的な訪問時の様子については、他登録者の様子も含めて報告と共有がされており、ナカポツセンターが支援を行っている登録者とA・Oとの人間関係や仕事内容も共有を行うことで部署内での良好な関係・就労定着支援が図れていると感じる。	
障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題	就労定着支援事業所との役割分担や支援の連携は取れていると感じる。就労定着支援事業が始まったことで、一旦障害福祉サービスを受けてその上で就労という流れになった。元々、C社内の障害者雇用している専門部署に専属の担当者がおらず、その点を改善すべき点として挙げていたが、この事業が始まったことで、C社は福祉サービスに頼ってしまう面が強く出てしまっているように感じる。	
就労定着支援事業所からの要望・意見	特に要望等は無く、企業支援という大きな枠の中で連携を取りながら支援を継続出来ていると聞いている。	